田辺、小浜、福井藩領域からみた「前土間」型 農家住宅の相違と特徴

旧藩領域からみた江戸時代後期～明治期における農家住宅平面構成の
地域的相違に関する実証的研究（その 5）

正 会 員 大 岡 敏 昭*

正 会 員 青 木 正 夫**

はじめに

前稿¹⁾までにおいて、江戸時代後期から明治期にかけて建てられた農家住宅平面構成が旧藩領域によって異なっている実態を九州と東北の 20 の旧藩で明らかにしてきたが、その藩の幕藩社会の地域構造における全国的な位置づけは以下の 4 点にあった。

まず第一は、当時の商品経済の中心であった三都から遠く離れた辺境の地の藩である。第二は、それゆえに両地方は商品経済の浸透が遅れ、したがって藩の自給自足的、閉鎖的な領域経済の仕組みが遅くまで残存したこと。第三は、農業構造においても小農の自立と成長が遅れ、名子制度が江戸時代中期ごろまで残存した地方である。第四は、譜代藩も一部にみられたが、多くは戦国大名時代からその地域を支配していた旧族居付の外様藩か、または他の領地からの転封の外様藩である。隣接する藩と藩の組み合わせも外様—外様が多く、一部で外様—譜代のパターンであった。しかし、本研究の目的とする旧藩領域によって独自の平面構成の農家住宅が成立し、それが江戸時代後期における一つの普遍的現象であったことを全国的に立証するには、以上の旧藩だけでは不十分であり、上にみた全国的な位置づけの藩とは対照的な性格の旧藩も取り上げるべきであろう。

また住宅型についても、前稿までは全国的に分布しているところの前座敷系、鍵座敷系、併列系の「全国型」住宅を対象にしてきた。ところが、ある特定の地域にしか分布していない「地域型」住宅も全国的には数多く分布している。したがって、それらの住宅型も対象にして旧藩による相違を考察する必要があるといえる。

そこで本稿と次稿では、幕藩社会体制における政治と商品経済の中心であった中央地域に位置する 2 つの地域の譜代藩を取り上げた。まず 1 つの地域は、江戸時代初期から商品経済に強く影響され、しかも当初からかなり

高い農業生産力を生み、したがって小農の自立と成長が全国的に逸早く展開していた近畿地方と北陸地方中・南部に位置する田辺、小浜、福井の譜代 3 藩である。2 つめの地域は、農業構造においては江戸中期ごろまで後進性を残してはいるが、幕府にとっては政治的地域構造上の重要な地域であった信州、甲州地方に位置する松本、上田、諏訪、甲府の譜代 4 藩である。これらの譜代藩は、その地域における古い伝統的なものを引き継ぎいかにそれを幕藩制的なものにしていくかという変革の課題をもつ外様藩²⁾に対して、新たにいかに藩を作りあげるか創造の課題をもつ藩である³⁾。藩と藩の隣接関係もすべて譜代—譜代の組み合わせであり、しかもその地域特有の「地域型」住宅が多く分布している地域でもある。

本稿（その 5）では前者の 3 藩を対象にして、一連の研究目的に加えて、とくに以下の分析に重点をおいた。第一は、全国的にみてこの地域特有の「前土間」型住宅に焦点をあて、その住宅型の全国的な位置づけとその平面的特徴を考察する。第二は、「前土間」型の分類を再検討し、その分類をもって旧藩領域による平面構成およびその発展過程の相違を明らかにする。第三は、小浜、福井藩においても、同じ系統であるがその発展過程が異なる住宅型が藩内の小地域に分かれて分布している実態と、それを規定している地域的条件を大工の仕事圏域を含めて考察した。

なお後者の 4 藩については次稿（その 6）で論じる予定である。調査の方法は前稿までと同じく、田辺、小浜、福井の 3 藩とその周辺地域に位置する 37 の現市町村の農業集落区長 875 名に対して、江戸時代から明治期に建てられたと思われる住宅の確認調査を行い、278 名からの回答を得て（回収率 31.4 %）、536 戸の現存住宅を確認した。そして本調査団が現地に出向き、3 藩の境界地域を中心に 130 戸の復元調査⁴⁾を行った。調査概要は表—1 に、藩の性格については表—2 に、復元住宅の概要と編年表は表—4 に示す。

* 日本文理大学 助教授

** 九州大学 教授・工博

（昭和 62 年 4 月 13 日原稿受理）

1. 「前土間」型の平面的特徴とその分類

対象とした3藩のうち、小浜、福井藩が位置する若狭と越前地方は、その南部の湖北、湖西、北部の加賀地方とを併わせて、全国的にみて極めて特徴的な農家住宅の分布域である。これまで多くの先学によってその住宅の分布実態が紹介されてきた⁵⁾。一般に、この地域の住宅の特徴の一つとして、妻入り型住宅の分布域として認識されるふしもあったが、妻入り型はこの地域だけ分布しているのではなく、信州の本棟造、熊本北部の分棟型、畿内の摂丹型などにもみられる。しかもこの地域は妻入り型だけではなく平入り型も多く混在しているのである。

そこで、この地域の農家住宅の特徴を入口・屋根形式ではなく平面構成においてとらえれば、それは「前土間」型⁶⁾にあるといえる。これは図—1にみるように、全国的に分布する前座敷系、鍵座敷系、併列系などの住宅において、土間が座敷、寝所、広間の居室と並んでその横側に付く「横土間」型とは異なり、土間が住宅の前側に位置し、その前に主な入口がつき、居室は土間の奥側に設けられた住宅型である。この2つの型は土間の位置の違いに規定され平面構成原理も異なるのである。つまり「横土間」型の座敷の位置は、前座敷系住宅においては主な入口と同じ前側にあり、寝所はその奥にとられる。下手の多目的空間の広間は、当初は梁行き一杯の広さであるが、住宅の発展において奥側が家族の生活空間として間仕切られていく。土間も奥が竈のある炊事場所であり、前側は客の上がり口に使い分けられ、やがてその間に間仕切りが発生してくる。このように、住宅の前側に接客空間、奥側に家族生活空間をとるという「おもて—おく」の領域区分の平面構成である。同じ「横土間」型でも鍵座敷系住宅においては、タテ型座敷の上座敷は住宅の奥に位置するが、これは接客空間のより発展した形式であり、「おもて—おく」の領域区分の基本原理は前座敷系と変わらない。併列系の住宅においても住宅の前側は座敷—広間であり、家族生活空間の独立寝所は奥側に確保されるのが多い。

これに対して、「前土間」型は住宅の前側が土間であり、その奥に居室が設けられている。その左右の一方は接客空間の座敷、一方に広間と寝所がとられ、接客と家族生活空間の配置構成は「おもて—おく」の関係ではなく、「みぎ—ひだり」の関係である。中には住宅の発展過程において、座敷、仏間などの接客祭礼空間を住宅の最も奥側へ優先的に設ける傾向にさえある。若狭と越前地方を中心としたこの地域の農家住宅平面構成の特徴とは、まさにこのような平面構成原理を有する「前土間」型にあるといえよう。この「前土間」型と「横土間」型の各々に妻入り型と平入り型の両方の形式がみられるのである。

この特徴的な農家住宅の分類については既往研究に多

表—1 調査概要

調査年月	調査藩と調査戸数
昭和60年10月～ 昭和61年3月～	1. 田辺(舞鶴)藩…33戸 2. 小浜藩……………66戸 3. 福井藩……………24戸 その他……………7戸 合計……………130戸

表—2 調査藩の性格と概要

(調査藩の位置図)	No.	藩名	石高	外様 藩代	藩主の系図(※2)		
					1603	1700	1868
	1	田辺(舞鶴)	3万5千石	譜代	京極氏 1600	牧野氏(摂津) 1608	
	2	小浜	11万3千石 (※3)	譜代	京極 1600	酒井氏(武蔵川越) 1634	
	3	福井	8万石～32万石 (※1)	家門	松平氏(下総結城) 1600		

- (※1) 福井藩は石高の変動が激しい。6.8万石は松平氏入封時の石高数であり、3.2万石は幕末の石高数である。また領城数動も激しいが小浜藩との境界は藩の成立から幕末まで全く変わっていない。
- (※2) 藩主の系図の欄で、藩主名の後の()内地名は領封地を表し、その後の数字は新封地への入封年を表す。
- (※3) 小浜藩の石高は酒井氏領主時代の石高である。また、調査藩の位置図の小浜藩領域は酒井氏領主時代の領域である。

図—1 前土間型と横土間型

くの優れた分類がなされている⁷⁾。しかしその分類は以下の三点に問題点があるように思える。

第一は、その特徴的な平面の農家住宅の名称を若狭Ⅰ型、大浦型、若狭Ⅱ型、北山型などというように、その住宅が分布している地域名を名付けていることである。ところが、その住宅はその地域名の地域にだけ分布しているのではなく、それ以外の地域にも多く分布している。これは研究調査の段階的問題で致し方のないことであるが、農家住宅の全国的な分布実態がほぼ明らかになっている現在、全国的視野でその平面の特徴に基づいた住宅型の分類と名称を系統的に整理検討する時期にあるように思われる。

第二は、若狭Ⅰ型と大浦型、若狭Ⅱ型と北山型のように、同じ平面でも、異なる地域名称でよばれている住宅が多くみられることである。ある特定地域を各々に異なった研究機関が調査した結果でもあろうが、これも分類を統一化する必要があるといえる。

第三は、前稿(その1)において、農家住宅の平面構成には発展系統の相違と発展段階(過程)の差異の2つのカテゴリーが含まれていること。この視点で分類を行うことが重要であることを指摘した⁸⁾。既往の分類では、同じ系統の住宅であっても、その発展段階が異なるものをもって、異なる住宅型として分類し、各々に地域名を名付けている例もみられるのである⁹⁾。

以上の問題点から本稿では、この地域の農家住宅の平面構成の特徴的な分類概念である「前土間」型を基準にして、図—2に示すような分類の再検討を行った。

図-2 前土間型住宅の分類

「前土間」型は基本的空間の座敷—広間—寝所の配置関係においてA、B、Cの3つの系統に大きく分類される。まず前土間A系統である。この型は下座敷の位置の相違からさらに2つの住宅型に分かれる。1つは前土間A₁型であり、その(1)は前土間の右手の奥にイロリのある広間(H)、その奥が独立寝所(N)で構成された住宅である。広間の左手は座敷(Z)と下座敷(Zc)がタテ方向に設けられ、その下座敷に接して前側に内蔵舎がとられている。この下座敷は古い住宅になると4畳程度の小さいイタマの部屋であり、当初は内蔵舎の農作業の場、物置場であったものが、次第に規模の拡大をとまって下座敷に発展したと考えられる。広間は10畳から12畳程度と広く、周囲の各部屋へはこの広間からはいる平面構成であり、所謂広間型の特徴を有している。前土間A₁型の(2)の住宅は、広間の奥の寝所が拡大し間仕切りが整形の田の字型に発展した住宅型である。これらの前土間A₁型の入口は前土間の前にあるが、この入口とは別に、内蔵舎と下座敷の間を広げて、座敷が面する桁行側からの入口を新たに設けた住宅が前土間A₁変化型である。その入口は「カドグチ」と呼ばれ、接客時の出入りに使い、従来の妻側の入口は「セドグチ」と呼ばれて日常の家族、農作業の出入りに使っている。すなわち、この住宅型は入口の機能分化による発展型と見なせよう。既往の分類では、前土間A₁型の(1)は若狭Ⅱ型、北山型、前土間A₁型の(2)は若狭Ⅱ型、北船井型、前土間A₁変化型の(2)は北船井型などと分類されていたが、これらの住宅は同じ発展系統であり、その発展段階と発展過程が異なる住宅型として整理分類できよう。

一方、他の1つは座敷—下座敷が前土間A₁型のようにタテ方向に構成されるのではなく、ヨコ方向に構成された住宅が前土間A₂型である。前土間の前の入口は客用(農作業用を含む)と家族用の2つに分かれている。このA₂型は広間を基準にしてその奥に寝所、左手に座敷が位置する配置構成と内蔵舎の位置は前土間A₁型と変わらず、平面構成の基本的原理は同じといえる。

これらの2つの住宅型は下座敷の位置に相違があるので、下座敷のない前土間A型を両型の間に置いて3つの住宅型をみるとその相互関係がよく理解される。すなわち前土間A型の(1)の住宅型から下座敷が付加される発展過程に

において、その取りつきの位置の相違によって前土間A₁型とA₂型の異なる住宅型が成立したと考えられる。ただ前土間A₁型が妻入りで屋根が「おだち」構造¹⁰⁾であるのに対して、前土間A₂型は平入りで屋根は又首構造であり、屋根構造の相違がみられる。これは2つの住宅型への分化過程において、それぞれに特有の屋根構造に発展したとみることもできよう。また前土間A型の(2)の住宅は入口の分化と整形間取りにおいて(1)の住宅からの発展型とみなせる。

次に前土間B系統である。この住宅型は母屋の桁行き方向の中心線より片側半分は広い広間(H)であり、一方の片側半分は座敷(Z)—寝所(N)が桁行き方向に並ぶ特異な平面構成の住宅型である。広間の奥側に広間の床より三寸程高い「オウエ」と呼ばれる小室が設けられた住宅もあるが、これは寝所ではなく接客および主人の居間として使う部屋である。そして寝所は座敷の次の間を兼用している。したがって、前土間A系統が閉鎖的な独立寝所を有しているのとは異なっている。それに内蔵舎の位置においても、下座敷の前側に設けられたA系統の住宅型とは違って広間の前側に設けられている。このB系統も妻入り型(B₁型)と平入り型(B₂型)とがあるが、床上の平面は同一であり、両型は単なる入口の相違でしかない。このような住宅型のほかに、平面はまったくB₁型と同じであるが、入口が妻入りと平入りの両方を持つ住宅、あるいは平入りだけの住宅もみられる。これらの住宅は前土間型ではなく横土間型であるが、B₁型から入口形式だけが変化した住宅型(前土間B₁型変化型)としてとらえることができよう。いずれにしても前土間B₁型、前土間B₂型、前土間B₁変化型は入口

形式が異なるだけで平面構成はまったく同じであり、一つの系統の住宅型としてとらえられ、A系統の住宅型とは平面構成原理の異なる住宅型として系統分類されよう。この住宅型の既往研究の分類は、前土間B₁型の分類は見られず、B₂型とB₁変化型がともに越前I型として分類されている。

最後に前土間C系統である。前土間C₁、C₂、C₃型の3つの妻入り住宅は、一番奥の2室が座敷(Z)—仏間(B)であり、その手前の2室は次の間(Z_c)—寢所(N)である。広間の奥の部屋4室は3つの型とも同じ平面構成であり、前土間A、B系統とは異なる系統の住宅型といえよう。ただし、広間とツノヤ部分の形態は3つの型で相違があるが、これは発展過程の相違と考えられる。とくに、このC系統の住宅型の特徴的なことは住宅の奥の座敷のヨコに並ぶ仏間である。この部屋は元々寢所であったと思われる¹¹⁾、この住宅型の原形は広間—座敷—寢所の3室構成の前土間C型と考えられる。C₃'型はC₂型の入口が変化したものである。前土間C系統についての既往の分類は、C型は余呉型、加賀I型、伊香型と称され、C₁型は越前II型、C₂型は越前III型、加賀I型と分類され、C₃型の分類はみられない。

以上の分類に基づいて以下に藩別の分布実態を考察する。

2. 藩領域からみた住宅型の分布実態

図—3は田辺、小浜、福井の3藩の領域における住宅型の分布実態を示したものである。この3藩は中世から京都、大坂と北陸、山陰を結ぶ交通の要所として、また京都の北方鎮護として重要視された藩である。3藩のうち、西の田辺藩は譜代、東の福井藩は徳川の家門、その間に位置する小浜藩は大老の要職を努めた三河以来の門閥譜代である。藩の境界については、田辺と小浜藩の境界は慶長五年(1600)の両藩の成立から幕末まで変化はまったくない。小浜と福井藩の境界は、小浜藩の敦賀郡(現・敦賀市)が福井藩と同じ旧越前の国に属し、慶長五年(1600)から寛永元年(1624)まで福井藩領であったが、寛永元年以降小浜藩に属し幕末に至っており、境界もそれ以降変化はない。ただし、敦賀郡内の一部の小地域は江戸時代中期以降に小浜藩主の三人の直系が分給しているが(図—3のA、B、C地域)、3つの分給地とも城付支配ではなく、本藩(小浜)の末端支配機構としての陣屋、代官所による統治であり、また政策も本藩(小浜)に準じていたことから¹²⁾、これらの小地域は小浜藩と同じ領域に見なして差し支えないと思われる。福井藩の領域は時代によって変化しているが、本稿で対象とした中南部地域は図—3に示した領域が幕末時の最小領域である。また小浜藩の南部の境界も藩成立以降幕末まで変化はない。

まず田辺藩領域に分布する住宅型である。小浜藩との

境界地域に前土間A₁変化型が3例みられる他はすべて「横土間」型で平入り形式の前座敷系住宅が藩内全域に分布している。これを時代別にみると、江戸時代後期の住宅はすべて前座敷系であり、3例の前土間A₁変化型は明治期の住宅である。したがって江戸後期の田辺藩の住宅型は前座敷系住宅の分布域であったといえる。また発展段階は広間型が多く、江戸時代後期だけではなく、明治期にかけても多く建て続けられている。その発展型である前座敷田の字型は江戸時代後期に極く一部の農家で成立し、明治期に普及したといえる。

田辺藩から小浜藩に入り、その境界地域には田辺藩の「横土間」型の前座敷系住宅とは異なる前土間A₁型と前土間A₁変化型が混在分布している。この住宅を時代別にみると、江戸中期から江戸後期前半の住宅はすべて妻入りの前土間A₁型であったが、江戸後期後半になると妻入りと平入りの両方の入口をもつ前土間A₁変化型が増え出し、明治期になるとその型がかなり多く分布している(表—4参照)。この住宅型は小浜藩領域において田辺藩との境界に近接した地域だけに分布しており、境界から少し離れた地域には分布していないことから、田辺藩の平入り形式の影響を受けて成立した住宅型と想定される。要因は接客と家族生活の領域区分であろう。

この境界地域を拡大したのが図—5である。境界の南部を東西に通るのが山陰と北陸を結ぶ旧丹後街道である。その境界付近は丘陵と平坦地の水田地帯である。田辺藩の3例の前土間A₁変化型は境界に最も近接した集落(A地域)に混在分布している。この集落と小浜藩の集落との距離は1km程しかない。ところがA地域の集落と同じように境界には近接しているが、旧街道から離れた尾根境界地域の集落(B地域)の住宅はすべて前座敷系である。この集落は小浜藩の集落とは高い尾根で分断され、農業形態は谷津田の稲作と畑作地帯である。一方、小浜藩の住宅分布を集落別にみれば、山手にある谷津田と畑作中心の谷ぞい集落(C地域)に分布する7例の住宅はすべて妻入りの前土間A₁型である。江戸後期のみならず明治期に至ってもその型が建て続けられている。この集落で最も古い住宅はNo.42であるが、エンもなく小規模な広間型の前土間A₁型である。明治期になると各部屋が次第に拡大し、No.53、69、72の住宅のような田の字型の前土間A₁型に発展している。これにくらべて、旧街道に近い丘陵と平坦地の集落(D地域)の江戸中・後期の住宅は妻入りの前土間A₁型(No.34、43、48)であるが、江戸後期から明治期にかけての住宅は前土間A₁変化型がかなり多く分布している。その奥に繋がる集落も小高い丘陵地の集落であり、その型が多く分布している。このように境界地域の住宅型の変化と発展は集落単位で異なった様相を展開しており、それは集落の立地条件(旧街道との距離、集落の地

前土間型				後土間型	
前土間A系統	プロット記号	前土間B系統	プロット記号	前土間C系統	プロット記号
前土間A型		前土間B ₁ 型		前土間C型	
前土間A ₁ 型		前土間B ₂ 型		前土間C ₂ 型	
前土間A ₂ 型		前土間B ₃ 型		前土間C ₃ 型	
前土間A ₃ 変化型		前土間B ₄ 変化型			

注・田の字型 変形間取型(2)は住宅地に () のある住宅。

注2・室記号) ㊟ (廊下) Zc (次の間、下廊下) H (広間) N (転所) B (仏間) h⁺ (茶の間、広間変形空間) ㊟ (隠舎)

(注1・共通項目)

- ・総築時期……△^明 (明治期) △^大 (大正期)
- ・トコ形式……△_平 (平土間) △_タ (タコ)
- ・中庭……△^中 (中庭あり) △^中 (中庭なし)
- ・角田 (ツノヤ) のある住宅……△^角
- ・その他の住宅型……△

(注2・室記号)

㊟ (廊下) Zc (次の間、下廊下) H (広間) N (転所) B (仏間) h⁺ (茶の間、広間変形空間) ㊟ (隠舎)

ところで、前土間 A₂ 型にも広間型とその発展型と思

図—5 田辺、小浜藩境界域の住宅型分布

図—6 小浜、福井藩境界域の住宅型分布

われる整形間取りの住宅がみられるが、その住宅は敦賀郡のみに分布している。とりわけ分給地の鞠山領（図—3のB地域）に多く集中している。同じ住宅型でも人的な地域的わく組にその発展が規定された一現象といえる。小浜藩から福井藩に入ると住宅型はまったく異なる。南部の今庄町と南条町に分布する住宅型は妻入りの前土間B₁型であり、その北部には入口が平入りに変化しただけの前土間B₁変化型が分布し、中部の武生市とその周辺域は平入りの前土間B₂型が多く分布している。ツノヤのある住宅もこの地域に多い。海岸沿いの河野村、越前町には妻入りの前土間C₃型が分布している。このように福井藩の中・南部地域は2つの系統の住宅型が各々に分布圏域を形成している。この境界地域を拡大したのが図—6である。小浜、福井藩とその南部の彦根藩（飛び地）の3つの境界はかなり険しい尾根である。この境界地域には敦賀と北陸を結ぶ小浜街道、京都と北陸を結ぶ北陸街道が通っている。

小浜藩と福井藩の海岸地帯をみると、小浜藩のA地域の集落に分布する住宅型は江戸後期、明治期とも平入りの前土間A₂型である。ところが同じ海岸線を北上し僅か2.5 km程離れた福井藩の集落（B地域）に入ると分布する住宅は妻入りの前土間C₃型に変わる。平入りの住宅C₃'型（No. 110, 116）も一部にみられるが図の略平面にみるように入口が違っただけで平面構成はC₃型と変わらない。このAとBの2つの集落の地形・気候的条件を比較すると若干福井藩の集落が厳しい傾向にあるが、ともに海岸地域およびその周辺に立地する半農半漁などの集落であり藩による差異は余りない。

小浜藩のC地域の集落と福井藩のD地域の集落をみると、どちらも谷ぞいの山間集落であり、営農形態は畑作と山仕事を中心である。気候も厳しく冬の積雪量はどちらも1~2 mを下らない。しかし分布する住宅はC地域の平入りの前土間A₂型に対して、D地域は妻入りの前土間B₁型である。このCとDの2つの地域に隣接する彦根藩（飛び地）に分布する住宅は福井藩の前土間B系統、小浜藩の前土間A₂型のどちらの型とも異なる前土間C型である。以上から、小浜、福井、彦根藩（飛び地）の3つの領域が接する境界地域においても住宅型はそれぞれの藩で明瞭に異

なっているのである。

ところで、特異な平面の前土間B系統の分布形態を見ると興味ある事実が示されている。図—3をみると、妻入りの前土間B₁型は現・南条町、今庄町の北陸と畿内を結ぶ旧北陸街道に沿った地域に多く分布している。これに対して平面はまったく前土間B₁型と同じであるが、入口形式が異なるだけの平入りの前土間B₂型は武生市の旧街道から離れた地域に分布の傾向がうかがえる。そして同じく、平面は前土間B₁型と同じであるが、入口形式が妻入りと平入りの両方、若しくは平入りで横土間形式の前土間B₁変化型もその街道から離れた地域に分布している。後者の2つの型の分布域はどちらかといえば山間地域である。これを図—6の拡大図でみてもその傾向がはっきりと示されている。先にみた妻入りの前土間B₁型が集中的に分布している今庄は古来から重要な宿駅として栄えた地域であり、道沿いに妻入りのこの型が建ち並んでいる。したがって、特異な平面の前土間B系統の源流は今庄の宿駅地域の住宅形式として発展成立した妻入りの前土間B₁型であり、それが周辺地域に普及していくなかで、その敷地条件などから入口形式だけが異なる前土間B₂型および前土間B₁変化型に発展していったことが考えられるのである。

福井藩の中部以北に分布する住宅は本稿では調査していないが、既往調査¹³⁾によれば前土間C₂、C₃型が分布している。北陸街道をタテ軸に置いて、その南端に位置する彦根藩（飛び地）には前土間C型が分布し、北端に位置する福井藩中・北部地域にはその発展型と考えられる前土間C₂、C₃型が分布しているのであるが、その中間に位置する福井藩中・南部地域には上述の住宅型とはまったく異なる前土間B系統の住宅が分布しているのである。このことは前稿（その4）で述べたごとく、平面構成の成立発展においては、単に一方的伝播論では説明出来ない現象、つまり、その地域のわく組みと人的・文化的条件によっては、周辺地域の住宅とは系統がまったく異なる住宅型の分布域が成立することを示している。

以上、田辺、小浜、福井の3藩領域においても江戸時代後期から明治期の農家住宅の平面構成（発展系統）が藩の領域によって明瞭に異なっていること。それに異なるのは平面構成だけでなく、田辺藩が平入り、小浜藩の西部地域が妻入り、中・東部地域が平入り、福井藩の南部が妻入りであり、人口と屋根形式も藩によって相違がみられるのである。

3. 小浜、福井藩内の小地域における住宅型の相違と地域的条件（大工の仕事圏域も含めて）

小浜藩の農家住宅は、同じ系統ではあるがその発展過程が異なる住宅型が2つの地域（西部地域と中・東部地域）に分かれて分布していた。福井藩においてもこれと

同様の傾向がみられる。本節ではこの相違を規定している地域的条件について、大工の仕事圏域を含めて若干の考察を行う。

まず小浜藩の西部における妻入りの前土間A₁型の分布の中心は高浜町と大飯町で構成される大飯郡である（図—3）。寛永元年（1624）以降の小浜藩領域は敦賀郡、三方郡、遠敷郡、大飯郡の4つの旧郡域で構成されるが、西端の大飯郡は近世初頭において1つの支配領域を形成していた。その中心の高浜は中世末期の国人逸見氏の城下であったが、織豊時代〔天正十年（1582）以前であるが明確には不明〕から慶長五年（1600）にかけて、溝口、堀尾、山内氏が入れ換わり入封している¹⁴⁾。その後、大飯郡を含む若狭の国は丹羽氏の支配領域となり、大飯郡は1つの代官管轄域となっている。文禄二年（1593）に木下氏が若狭の国の領主として入封し、大飯郡はその弟の単独支配領域となり、2万石の領主として高浜域に入っている¹⁵⁾。慶長五年（1600）に京極氏が小浜城に入り、初めて小浜藩の成立をみるが、大飯郡は家老津川氏の知行地として独自の所管が続く。さらに、寛永十一年（1634）に酒井氏が新たに入封し、知行形態は地方知行から俸禄制に切り換わるが、大飯郡は郡奉行による1つの代官支配区として幕末まで続くのである¹⁶⁾。このように、大飯郡は小浜藩の中であって独特の地域的わく組をもつ歴史的支配経過をたどっている。その中心地の高浜は中世末期から城下および重要な町場として発展してきた。

以上からして、大飯郡に集中的に分布する前土間A₁型はこの大飯郡の歴史的支配体制の地域的わく組に規定されたことが考えられるのである。しかしながら、この住宅型は大飯郡だけではなく遠敷郡の名田庄村、小浜市西端部にも分布している。ところがこの地域を含みうる歴史的な地域的わく組は存在しない。そもそも住宅型の分布を規定する地域的条件のなかで、直接的にそれを実体化するのは大工にはかならない。したがって当時の大工の仕事圏域との関係で考察してみる。

江戸時代の大工に関する研究はこれまで数多くの業績があるが、農家住宅の住宅型別の分布圏域と大工の関係について論じた研究は筆者らの知る限り見られない。しかし、ある特定の大工（組）の仕事圏域とその移動などについて論じた研究は川本忠平氏¹⁷⁾、藤島玄治郎氏¹⁸⁾、川上貢氏¹⁹⁾などの優れた研究が挙げられる。なかでも川上氏の研究によれば、①畿内および周辺域では、江戸初期（貞享期）に大工組が編成されていたこと。②寛文期以降には大工の急激な増加により職域（仕事圏域）の制限割当てが行われていたこと。③そして江戸中期には大工仲間でその得意場所の尊重と相互不可侵を取り決めていたことが明らかにされている。さらに、④得意先と大工が固定した関係で結ばれていたことは、その営業は

この図は、福井藩領分御代官領四領所分（文政三年）より作成
上記史料は福井藩史（福井藩史）213 pに所収

図—8 福井藩内の代官領域

ている前土間 A_2 型と同じ住宅が分布し、西浅井町にはその両型が混在分布している。したがって小浜藩の住宅の分布域がそのまま南部にも延長した形態である。この分布形態から考えて、小浜藩に分布する住宅型と湖西地域に分布している住宅型との関係は以下の三点が考えられよう。第一は小浜藩に成立分布していた住宅型が湖西地域にも普及拡大していった過程。第二は、それとは逆に湖西地域で成立分布していた住宅型が小浜藩に普及拡大していった過程。第三は、元々その住宅型は小浜藩と湖西地域の一帯に成立発展していた過程である。

そこでこの2つの地域を比較すれば、小浜藩は近世初頭から門閥譜代の酒井氏が領主であり、領内の農業生産力は高く、しかも小浜、敦賀と云う北陸への2大要港をかかえて領内経済が発展している。これに比べて湖西地域は江戸時代初期から小藩、天領、旗本領、藩の飛び地、寺社領などが混在錯綜し、また一部地域ではその領域変動も激しい。半ば非領国的な地域といえよう。したがって藩の体制が確立している小浜藩の方が独自の諸政策が確立しており、住宅においても独自の形式が成立しやすい。また人と物の流れにおいても、小浜藩に北陸への多くの通過交通は存在するが、その際は、小浜藩の検問と運上金が課せられる。一方、湖西地域は非領国的地域ゆえに出入りはさほど厳しくはなかったと考えられ、小浜藩より湖西地域の方が外から入りやすい条件の地域であったといえる。

小浜藩の大工の活動においても、寛永年間に藩主の酒井忠勝によって「若州敦賀、高嶋領分中大工之儀改置他国江細工ニ罷越候、百人之内上中下をならし、五十づつ式代り仕、一替分若州ニこれ有様、一年替申付べき事」（空印様御書下）²⁵⁾の触れが出されており、すでに江戸初期に小浜藩の大工の活発な活動が窺え、その仕事先も小浜藩以外の地域に積極的に出ていったことを示している。出向先は不明であるが、湖西地域の今津町、高島町、安雲川町の一部地域は寛永十一年（1634）から貞享元年（1684）までは15ヶ村、以後幕末までは6ヶ村が小浜

藩の飛び地になっており、そのなかの木津港は小浜藩の年貢米を京都、大坂へ運ぶ重要な中継地の町場であったことから、この木津を基点に其の周辺域に大工が出ていったことも想定される。

ともかくも、小浜藩と湖西地域の住宅の関連が上記の第一～第三のいずれであったにせよ、小浜藩の住宅型は田辺、福井藩との境界によって極めて明瞭に異なっていることは事実であり、前土間 A_1 型と前土間 A_2 型が小浜藩の住宅形式として支配的に普及していたことは確かである。

4. 藩別にみた室数・規模と平面構成

（1）藩別にみた室数と規模

まず表—3に室数をみると、田辺藩の住宅は江戸後期において3室がほとんどであり、明治期になると4室が多くなる。これは江戸後期の住宅が前座敷広間型がほとんどであり、明治期にかけて広間が分割されて前座敷田の字型に発展した住宅が増えたことによる。一方、小浜藩の住宅は4～5室に山があり、福井藩の住宅は3～7室と分布幅が大きい。いずれの藩も明治期にかけて室数の増加がみられる。これは第2寝所の増設などによる。次に住宅規模をみると、田辺藩と小浜藩において江戸後期の住宅は20坪台に山があり、次いで30坪台が多い。これに比べて福井藩の江戸後期の住宅は30坪台に山がある。以上、この地域の藩においても室数、規模ともに3藩で差異が存在している。それを階層別に見た場合、村方三役層の住宅規模は各藩とも30坪以上に分布し、藩別の差異はやはり本百姓層に顕著に現象しているといえよう。

表—3 藩別にみた室数と規模

戸数	3室	4室	5室	6室	7室	8室	9室	10室	11室	12室	13室	14室	15室	16室	17室	18室	19室	20室	21室	22室	23室	24室	25室	26室	27室	28室	29室	30室	31室	32室	33室	34室	35室	36室	37室	38室	39室	40室	41室	42室	43室	44室	45室	46室	47室	48室	49室	50室	51室	52室	53室	54室	55室	56室	57室	58室	59室	60室	61室	62室	63室	64室	65室	66室	67室	68室	69室	70室	71室	72室	73室	74室	75室	76室	77室	78室	79室	80室	81室	82室	83室	84室	85室	86室	87室	88室	89室	90室	91室	92室	93室	94室	95室	96室	97室	98室	99室	100室	101室	102室	103室	104室	105室	106室	107室	108室	109室	110室	111室	112室	113室	114室	115室	116室	117室	118室	119室	120室	121室	122室	123室	124室	125室	126室	127室	128室	129室	130室	131室	132室	133室	134室	135室	136室	137室	138室	139室	140室	141室	142室	143室	144室	145室	146室	147室	148室	149室	150室	151室	152室	153室	154室	155室	156室	157室	158室	159室	160室	161室	162室	163室	164室	165室	166室	167室	168室	169室	170室	171室	172室	173室	174室	175室	176室	177室	178室	179室	180室	181室	182室	183室	184室	185室	186室	187室	188室	189室	190室	191室	192室	193室	194室	195室	196室	197室	198室	199室	200室	201室	202室	203室	204室	205室	206室	207室	208室	209室	210室	211室	212室	213室	214室	215室	216室	217室	218室	219室	220室	221室	222室	223室	224室	225室	226室	227室	228室	229室	230室	231室	232室	233室	234室	235室	236室	237室	238室	239室	240室	241室	242室	243室	244室	245室	246室	247室	248室	249室	250室	251室	252室	253室	254室	255室	256室	257室	258室	259室	260室	261室	262室	263室	264室	265室	266室	267室	268室	269室	270室	271室	272室	273室	274室	275室	276室	277室	278室	279室	280室	281室	282室	283室	284室	285室	286室	287室	288室	289室	290室	291室	292室	293室	294室	295室	296室	297室	298室	299室	300室	301室	302室	303室	304室	305室	306室	307室	308室	309室	310室	311室	312室	313室	314室	315室	316室	317室	318室	319室	320室	321室	322室	323室	324室	325室	326室	327室	328室	329室	330室	331室	332室	333室	334室	335室	336室	337室	338室	339室	340室	341室	342室	343室	344室	345室	346室	347室	348室	349室	350室	351室	352室	353室	354室	355室	356室	357室	358室	359室	360室	361室	362室	363室	364室	365室	366室	367室	368室	369室	370室	371室	372室	373室	374室	375室	376室	377室	378室	379室	380室	381室	382室	383室	384室	385室	386室	387室	388室	389室	390室	391室	392室	393室	394室	395室	396室	397室	398室	399室	400室	401室	402室	403室	404室	405室	406室	407室	408室	409室	410室	411室	412室	413室	414室	415室	416室	417室	418室	419室	420室	421室	422室	423室	424室	425室	426室	427室	428室	429室	430室	431室	432室	433室	434室	435室	436室	437室	438室	439室	440室	441室	442室	443室	444室	445室	446室	447室	448室	449室	450室	451室	452室	453室	454室	455室	456室	457室	458室	459室	460室	461室	462室	463室	464室	465室	466室	467室	468室	469室	470室	471室	472室	473室	474室	475室	476室	477室	478室	479室	480室	481室	482室	483室	484室	485室	486室	487室	488室	489室	490室	491室	492室	493室	494室	495室	496室	497室	498室	499室	500室	501室	502室	503室	504室	505室	506室	507室	508室	509室	510室	511室	512室	513室	514室	515室	516室	517室	518室	519室	520室	521室	522室	523室	524室	525室	526室	527室	528室	529室	530室	531室	532室	533室	534室	535室	536室	537室	538室	539室	540室	541室	542室	543室	544室	545室	546室	547室	548室	549室	550室	551室	552室	553室	554室	555室	556室	557室	558室	559室	560室	561室	562室	563室	564室	565室	566室	567室	568室	569室	570室	571室	572室	573室	574室	575室	576室	577室	578室	579室	580室	581室	582室	583室	584室	585室	586室	587室	588室	589室	590室	591室	592室	593室	594室	595室	596室	597室	598室	599室	600室	601室	602室	603室	604室	605室	606室	607室	608室	609室	610室	611室	612室	613室	614室	615室	616室	617室	618室	619室	620室	621室	622室	623室	624室	625室	626室	627室	628室	629室	630室	631室	632室	633室	634室	635室	636室	637室	638室	639室	640室	641室	642室	643室	644室	645室	646室	647室	648室	649室	650室	651室	652室	653室	654室	655室	656室	657室	658室	659室	660室	661室	662室	663室	664室	665室	666室	667室	668室	669室	670室	671室	672室	673室	674室	675室	676室	677室	678室	679室	680室	681室	682室	683室	684室	685室	686室	687室	688室	689室	690室	691室	692室	693室	694室	695室	696室	697室	698室	699室	700室	701室	702室	703室	704室	705室	706室	707室	708室	709室	710室	711室	712室	713室	714室	715室	716室	717室	718室	719室	720室	721室	722室	723室	724室	725室	726室	727室	728室	729室	730室	731室	732室	733室	734室	735室	736室	737室	738室	739室	740室	741室	742室	743室	744室	745室	746室	747室	748室	749室	750室	751室	752室	753室	754室	755室	756室	757室	758室	759室	760室	761室	762室	763室	764室	765室	766室	767室	768室	769室	770室	771室	772室	773室	774室	775室	776室	777室	778室	779室	780室	781室	782室	783室	784室	785室	786室	787室	788室	789室	790室	791室	792室	793室	794室	795室	796室	797室	798室	799室	800室	801室	802室	803室	804室	805室	806室	807室	808室	809室	810室	811室	812室	813室	814室	815室	816室	817室	818室	819室	820室	821室	822室	823室	824室	825室	826室	827室	828室	829室	830室	831室	832室	833室	834室	835室	836室	837室	838室	839室	840室	841室	842室	843室	844室	845室	846室	847室	848室	849室	850室	851室	852室	853室	854室	855室	856室	857室	858室	859室	860室	861室	862室	863室	864室	865室	866室	867室	868室	869室	870室	871室	872室	873室	874室	875室	876室	877室	878室	879室	880室	881室	882室	883室	884室	885室	886室	887室	888室	889室	890室	891室	892室	893室	894室	895室	896室	897室	898室	899室	900室	901室	902室	903室	904室	905室	906室	907室	908室	909室	910室	911室	912室	913室	914室	915室	916室	917室	918室	919室	920室	921室	922室	923室	924室	925室	926室	927室	928室	929室	930室	931室	932室	933室	934室	935室	936室	937室	938室	939室	940室	941室	942室	943室	944室	945室	946室	947室	948室	949室	950室	951室	952室	953室	954室	955室	956室	957室	958室	959室	960室	961室	962室	963室	964室	965室	966室	967室	968室	969室	970室	971室	972室	973室	974室	975室	976室	977室	978室	979室	980室	981室	982室	983室	984室	985室	986室	987室	988室	989室	990室	991室	992室	993室	994室	995室	996室	997室	998室	999室	1000室	1001室	1002室	1003室	1004室	1005室	1006室	1007室	1008室	1009室	1010室	1011室	1012室	1013室	1014室	1015室	1016室	1017室	1018室	1019室	1020室	1021室	1022室	1023室	1024室	1025室	1026室	1027室	1028室	1029室	1030室	1031室	1032室	1033室	1034室	1035室	1036室	1037室	1038室	1039室	1040室	1041室	1042室	1043室	1044室	1045室	1046室	1047室	1048室	1049室	1050室	1051室	1052室	1053室	1054室	1055室	1056室	1057室	1058室	1059室	1060室	1061室	1062室	1063室	1064室	1065室	1066室	1067室	1068室	1069室	1070室	1071室	1072室	1073室	1074室	1075室	1076室	1077室	1078室	1079室	1080室	1081室	1082室	1083室	1084室	1085室	1086室	1087室	1088室	1089室	1090室	1091室	1092室	1093室	1094室	1095室	1096室	1097室	1098室	1099室	1100室	1101室	1102室	1103室	1104室	1105室	1106室	1107室	1108室	1109室	1110室	1111室	1112室	1113室	1114室	1115室	1116室	1117室	1118室	1119室	1120室	1121室	1122室	1123室	1124室	1125室	1126室	1127室	1128室	1129室	1130室	1131室	1132室	1133室	1134室	1135室	1136室	1137室	1138室	1139室	1140室	1141室	1142室	1143室	1144室	1145室	1146室	1147室	1148室	1149室	1150室	1151室	1152室	1153室	1154室	1155室	1156室	1157室	1158室	1159室	1160室	1161室	1162室	1163室	1164室	1165室	1166室	1167室	1168室	1169室	1170室	1171室	1172室	1173室	1174室	1175室	1176室	1177室	1178室	1179室	1180室	1181室	1182室	1183室	1184室	1185室	1186室	1187室	1188室	1189室	1190室	1191室	1192室	1193室	1194室	1195室	1196室	1197室	1198室	1199室	1200室	1201室	1202室	1203室	1204室	1205室	1206室	1207室	1208室	1209室	1210室	1211室	1212室	1213室	1214室	1215室	1216室	1217室	1218室	1219室	1220室	1221室	1222室	1223室	1224室	1225室	1226室	1227室	1228室	1229室	1230室	1231室	1232室	1233室	1234室	1235室	1236室	1237室	1238室	1239室	1240室	1241室	1242室	1243室	1244室	1245室	1246室	1247室	1248室	1249室	1250室	1251室	1252室	1253室	1254室	1255室	1256室	1257室	1258室	1259室	1260室	1261室	1262室	1263室	1264室	1265室	1266室	1267室	1268室	1269室	1270室	1271室	1272室	1273室	1274室	1275室	1276室	1277室	1278室	1279室	1280室	1281室	1282室	1283室	1284室	1285室	1286室	1287室	1288室	1289室	1290室	1291室	1292室	1293室	1294室	1295室	1296室	1297室	1298室	1299室	1300室	1301室	1302室	1303室	1304室	1305室	1306室	1307室	1308室	1309室	1310室	1311室	1312室	1313室	1314室	1315室	1316室	1317室	1318室	1319室	1320室	1321室	1322室	1323室	1324室	1325室	1326室	1327室	1328室	1329室	1330室	1331室	1332室	1333室	1334室	1335室	1336室	1337室	1338室	1339室	1340室	1341室	1342室	1343室	1344室	1345室	1346室	1347室	1348室	1349室	13
----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	----

間に奥と前側とを隔てる間仕切りが設けられて事例—3の前座敷田の字型に発展している。

田辺藩における田の字型の一般的普及は明治期以降であるが、田の字型成立の要因は農業面からの規定性が高い。事例—3の「オマ」と「シモンデ」の間の間仕切りの上部は差し鴨居を掛けているだけで垂れ壁はなく開放である。これは田辺藩の田の字型住宅に共通している仕切り方法である。この地域の養蚕は江戸後期後半から明治期にかけて盛んになったが、その幼蚕飼育における暖房のために広間を2つに間仕切って前の部屋(シモンデ)を蚕室に使い、間仕切りの上部は夏の通風のため開けておく。養蚕に通風と暖房は極めて重要な飼育条件であったからである。また蚕の成長にともない蚕棚のスペースも増大するため間仕切りを取り外して広間全部を使っている。この場合、間仕切りの上部が垂れ壁では通風と蚕棚の設置に困るのである。このような間仕切りは、広間型の住宅において、養蚕のために後から間仕切っている事例が多くみられた。同じ前座敷田の字型でも、前稿でみた九州の岡藩における田の字型の成立要因は農業面からの規定性よりもむしろ家族の日常的食事の場を設けることにあった。広間型から田の字型への発展要因は藩、地域によって異なっているといえる。

(ロ) 小浜藩の農家住宅

小浜藩は西部地域に前土間A₁型(妻入り)、中・東部地域に前土間A₂型(平入り)の2つの住宅型が分布していることを前述した。この両型の原形と思われる住宅が事例—4、5の前土間A型(1)である。広間(ダイドコロ)の奥が寝所(ネマ、ナンド)であり、その横に座敷(ザシキ)が設けられ、座敷に接して前側に内蔵舎(ウマヤ)がある。広間と土間との間に間仕切りはない。事例—5の住宅になると土間は座敷の前側と広間の前側とに間仕切りで区分されている。日常の家族の出入

りは広間の前の入口であり、接客祭礼時と農作業の出入り口は座敷の前の入口を使っている。接客祭礼時の入口と農作業の入口が併用であるのが興味深い。

このような前土間A型(1)の座敷の前側に下座敷(シモンデ)が設けられた住宅が事例—6~8の前土間A₁型である。事例—6の下座敷と内蔵舎との間の小さな土間は馬の飼育作業場である。そこへ入るには前土間からではなく、桁行き側に設けた農作業用の潜り戸から入る。下座敷はそのような飼育の作業場、または穀物、藁などの置き場として使っている。この下座敷の床は当初からイタマであり、したがって下座敷と前土間の間の敷居の天端は床板とおなじレベルにある。それに室名をイタマと称する住宅も多くみられる。このように下座敷は座敷の次の間として設けられた部屋ではなく農作業、物置場

事例—4

事例—5

事例—6

事例—7

事例—8

事例—9

事例—1

事例—2

事例—3

事例—10

事例—11

を強く意図した部屋といえる。接客祭礼の時は下座敷も客間として使うが、その時の客は広間から迎え入れる。そして広間と土間の間には建具はなく、この型は事例—4の住宅型からの発展型といえよう。事例—7の下座敷と内廬舎との間の土間も飼育作業場であるが、前土間とは閉ざされているためそこへは広間から入る。事例—8は下座敷に内廬舎が接して設けられているが、前土間から下座敷へ直接入れるイタ戸が設けられている。入口も下座敷、内廬舎への入口（カドグチ）と、広間の前の入口（ニワグチ）の2つがある。前者の入口は接客と農作業用に、後者の入口は日常家族用に機能分離している。したがって、この型は事例—6, 7からの発展型といえる。

江戸時代後期以降になると住宅規模も拡大し、下座敷（イタバ）と内廬舎（マヤ）との間が開けられ、桁行側から座敷へ直接入れる客用入口の「カドグチ」を設けた住宅が事例—9の前土間A₁変化型である。下座敷は拡大し、農業的用途の強い性格の部屋から座敷の次の間としての接客空間に純化している。これは前土間A₁型にみた接客と農作業、家族用との領域未分離の矛盾を解決する方法として成立した住宅といえる。しかし棟の向きは従来の前土間A₁型と変わらず、座敷の前庭は前土間の前側にあり、「カドグチ」へは住宅を廻り込むように入っていく。

明治後期になると寝所の増設拡大によって事例—10にみる田の字型住宅に発展している。この田の字型への発展の契機は田辺藩にみた養蚕からではなく寝所の拡大による。さらに座敷と下座敷の間に中座敷（ナカノマ）が設けられ、土間にも奥と前の領域区分の間仕切りがされた住宅が事例—11である。このような中座敷の設置と土間の「おもて—おく」の領域区分は、前土間型の変化型だけではなく、鍵座敷系、前座敷系など多くの住宅にみられる住宅発展の普遍的現象である。

前土間A型の座敷のヨコに下座敷（クチノマ）が設けられて発展したと思われる住宅が事例—12の前土間A₂型である。下座敷は4畳と狭いが、前土間A₁型の下座敷とは異なり、まさに接客用の次の間である。前土間も座敷の前側と広間の前側に間仕切りられ、入口もそれに対応して家族用と接客（農作業）用の2つにはっきりと分けられている。下座敷が6畳に拡大しエンも設けた規模の大きい同じ型の住宅が事例—13である。さらに寝所が拡大し整形間取りに発展した住宅が事例—14である。この住宅は寝所とダイドコロの間にオウエと呼ばれる小室が設けられているが、この部屋はダイドコロより5寸ほど高くなっており、納戸構えに似た構成である。座敷、寝所への通路、または広間の後室の意味も有している。オウエは小浜藩では福井藩との境界に近接した敦賀郡の一部の上層農家にだけみられる。隣接する福井藩の住宅には多くみられ、やはり広間（ダイドコロ）の奥

事例—12

事例—13

事例—14

事例—15

に設けられた一段高い小部屋を意味している。福井藩の住宅の影響が考えられる。整形間取りでオウエがない住宅が事例—15である。オウエがなくてもダイドコロの奥の寝所は一段高い納戸構え的な構成である。

以上みてきたように、小浜藩に分布する前土間A₁型と前土間A₂型の2つの住宅型は、前土間A型に下座敷が設けられる発展過程において、その下座敷の取りつき位置がタテ、ヨコに違った結果、住宅の棟の拡大方向にも相違が生まれ、屋根形式も妻入りと平入りの異なった形態に分かれたといえる。しかし両型とも、接客領域と家族生活領域を左右に領域区分し、入口もそれに対応して区分し、広間型から寝所の拡大をもって整形間取りの住宅への発展すると云う共通の法則的現象がみられるのである。

(ハ) 福井藩の農家住宅

本稿で対象とした中・南部の住宅をみている。まず前土間B系統である。事例—16の妻入りのB₁型は桁行き方向の中心線より片側半分が18畳の広い広間（ダイドコロ）であり、一方の片側半分がナンド—ナカマ—デベヤが並んだ特徴的な住宅である。この一例に並んだ各部屋は広間より8寸5分程高くなっている。座敷はなく、一番奥の仏間のある部屋が座敷的な部屋であるが、室名はナンドと称している。この部屋が元々寝所であった名残りであろう。寝室にはナカマを使い、デベヤは農用空間である。内廬舎は広間の前の土間部分の片隅に設けられており、小浜藩の内廬舎の位置が座敷の前であったのとは異なる。明治期の住宅が事例—17であるが、奥の部屋にはトコが設けられて座敷化している。事例—18の広間の奥には床が一段高くなったオイエと呼ばれる部屋が設けているが、オイエは寝所ではなく主人の居間、または客間的な部屋である。主人の食事場所に使っ

事例—16
No.100 (江戸後期Ⅰ) 前土間B₁型
福井藩 (福井県今庄町宇津尾)
階層 (本百姓)

事例—17
No.119 (明治後期) 前土間B₁型
福井藩 (福井県今庄町係谷)
階層 (本百姓)

事例—22
No.112 (江戸後期Ⅱ) 前土間C₁型
福井藩 (福井県越前町米浦)
階層 (本百姓、網元)

事例—23
No.121 (明治後期) 前土間C₁型
福井藩 (福井県河野村具谷)
階層 (本百姓)

事例—18
No.117 (明治前期) 前土間B₁型
福井藩 (福井県今庄町係谷)
階層 (本百姓)

事例—19
No.104 (江戸後期Ⅰ) 前土間B₁型、変化型
福井藩 (福井県今庄町蔵戸)
階層 (本百姓)

事例—24
No.110 (江戸後期Ⅱ) 前土間C₁型
福井藩 (福井県河野村)
階層 (庄屋)

事例—25
No.126 (江戸後期Ⅱ) 前土間C型
彦根藩飛び地 (滋賀県余興町小谷)
階層 (本百姓)

事例—20
No.103 (江戸後期Ⅰ) 前土間B₁型、変化型
福井藩 (福井県今庄町古木)
階層 (本百姓)

事例—21
No.101 (江戸後期Ⅰ) 前土間B₂型
福井藩 (福井県武生市勾当原)
階層 (本百姓)

たり、主人の持てなすべき客はこの部屋で応対したり、祭礼時の家族の食事場所にも使う。寝所は下屋（ゲヤ）または前土間に設けられたヘヤか、あるいは下座敷（ザシキ）の兼用である。この住宅も座敷の呼称はナンドと言い、そこが元々寝所であったことをうかがわせる。

事例—19は妻入りのB₁型に桁行き側にも入口が設けられた前土間B₁変化型である。当初は広間（ダイドコロ）の奥には部屋はなかったが、明治期になってその片隅にオイエが設けられている。座敷はブツマと呼ばれ、寝所は下座敷（ナンド）の部屋である。事例—20は入口が桁行き側にある前土間B₁変化型である。広間の上手の奥には床が一段高いオイエがとられ、この住宅も寝所は下座敷である。これらの住宅型の特徴としては桁行き側の入口が座敷（仏間）側ではなく広間側にあることである。これは小浜藩の前土間A₁変化型の入口は桁行きの座敷側にとられるのと異なっている。このことは事例—21の平入りの前土間B₂型をみても同様である。平面構成はB₁型およびB₁変化型と変わらず座敷的空間はブツマであり、広間の上手の奥にはオイエを設けてい

る。広間は前側にツノヤが張り出す形で拡大されている。入口はやはり広間側に取りられている。このように、B系統の妻入りと平入りのどちらの住宅も奥側にブツマなどの接客祭礼空間を取るという平面構成原理が強く働いているのである。

事例—22、23は前土間C₁型である。一番奥の2室はトコのある座敷（ザシキ）と仏間（ブツマ）の接客祭礼空間がとられている。寝所（ナンド）はナカノマの横に下屋を張り出して設けている。この型も元々奥に寝所があったが、座敷—仏間の拡充化によってこのような場所に移動したものであろう。このC₁型も事例—24の平入りに変化した住宅もみられるが、これは単に敷地条件による入口だけの变化と考えられる。この住宅は座敷側に入口が設けられており、前土間B₁変化型およびB₂型とは異なっている。事例—25は福井藩の南に隣接する彦根藩（飛び地）に分布する前土間C型である。広間（ダイドコロ）の奥の2室は座敷（ザシキ）—寝所（ネマ）で構成された住宅であり、前土間C系統の原形と考え

表—5 図面記入調査住宅の概要

記号	住宅所在地	藩別	平面分類	記号	住宅所在地	藩別	平面分類
アイ	綾部市	故屋	前座敷田の字型	ソ	マキノ町	沢	前土間A ₂ 型
ウ	綾部市	睦寄	前座敷田の字型	タ	マキノ町	上開田	前土間A ₂ 型
エ	和歌町	上妻野	前土間A ₁ 型、変化型	チ	マキノ町	下	前土間A ₂ 型
オ	和歌町	塩谷	前土間A ₁ 型、変化型	ツ	西浅井町	番掛	前土間A ₁ 型
カ	美山町	豊原	前土間A ₁ 型、(重文)	テ	西浅井町	集福寺	前座敷田の字型
キ	美山町	河内谷	前土間A ₁ 型、変化型	ナ	西浅井町	山門	前土間A ₁ 型
ク	美山町	鶴ヶ岡	前土間A ₁ 型、変化型	ニ	余区	余区	前土間A ₂ 型
ケ	美山町	中	前土間A ₁ 型、変化型	ノ	西浅井町	小山	前土間A ₁ 型
コ	朽木村	下	前土間A ₁ 型、変化型	ネ	木之本町	山梨子	前座敷田の字型
サ	朽木村	小川	前土間A ₁ 型	ハ	大音	片山	前座敷田の字型
シ	朽木村	木地山	前土間A ₁ 型	ヒ	高月町	黒田	前土間C型
ス	朽木村	麻生	前土間A ₁ 型	ヘ	木之本町	千田	前土間C型
セ	マキノ町	雲海谷	前土間A ₁ 型		高月町	柏原	前土間C型
		森西	前土間A ₂ 型				

(注) 住宅記号は (図—3) の住宅型分布図のプロットの記号と同じである。

表—4 調査住宅の戸別概要と編年表

[illegible][illegible]

表—6 既往調査住宅の概要と出典文献名

住宅No	住宅氏名	住宅所在地	旧藩名	平面分類	出典文献
①	田村長治郎	三方町 倉見	小浜	前土間A: 型(1)	福井県の民家 (昭和44年)
②	高木伍一郎	美浜町 新庄田代	小浜	前土間A: 型(1)	福井県の民家 (昭和44年)
③	松宮武一	上中町 井ノ口	小浜	前土間A: 型(1)	福井県の民家 (昭和44年)
④	宮田平夫	上中町 日笠	小浜	前土間A: 型(1)	福井県の民家 (昭和44年)
⑤	清水勇	上中町 三宅	小浜	前土間A: 型(1)	福井県の民家 (昭和44年)
⑥	尾上つき	敦賀市 奥野	小浜	前土間A: 型(2)	福井県の民家 (昭和44年)
⑦	石原卯之助	敦賀市 奥麻生	小浜	前土間A: 型(1)	福井県の民家 (昭和44年)

(注) 住宅Noは (図-3) の住宅型分布図のプロットNoと同じである。

られる。以上からして福井藩の住宅の特徴は前土間 B, C 系統のどちらの型も、住宅の一番奥の部屋を座敷または仏間の接客祭礼空間に優先的に確保する平面構成である。そして寝所は下屋か、または下座敷と併用している。同じ前土間型であっても小浜藩の住宅とは寝所の形態、接客領域と家族生活領域の区分方法においてかなり異なるといえる。

5. まとめ

① 若狭、越前、加賀、湖西、湖北の地域に分布する農家住宅平面構成の特徴は、《鍵座敷系、前座敷系、併列系などの全国型住宅》においては土間が住宅の横に付く「横土間」型であるのに対して、土間が住宅の前側に位置し、その奥に各居室が設けられるという「前土間」型にあるといえる。この平面構成原理の特徴は、「横土間」型の《住宅の前側に接着祭礼空間を配置し、その奥に家族生活空間を配置する「おもて—おく」の領域区分》の平面構成原理とは異なって、住宅の前が土間であり、その奥に居室を設け、接客祭礼空間と家族生活空間を左右に分けるか、あるいは奥に接客祭礼空間をとるという平面構成原理にある。

② この「前土間」型住宅は A, B, C の 3 つの系統に分類整理され、各々に発展段階（過程）の異なる住宅が存在している。またそれぞれに妻入り型、平入り型が存在している。

③ 江戸期における商品経済の中心地であり、当時の農業構造の先進地でもあった畿内の周辺に位置する譜代 3 藩の田辺、小浜、福井の各藩領域においても、江戸時代後期から明治期にかけて建てられた農家住宅は、藩の領域によって明瞭にその平面構成（発展系統）および室数と規模（本百姓層）が異なっている。すなわち田辺藩は「横土間」型の前座敷系が分布し、小浜藩は前土間 A 系統が、福井藩では前土間 B, C 系統の住宅が分布している。同じ「前土間」型が分布する小浜と福井藩とでは、藩によって、その平面構成（発展系統）が異なるだけでなく、内庭舎の位置、寝所の形態、接客祭礼空間の確保の仕方も異なっており、その藩独自の平面構成が成立している。とくに福井藩の住宅は元々独立寝所が住宅の奥に存在していたものが、この地域に盛んであった浄土真宗（一向宗）の影響を受けて奥の寝所が次第に仏間として転化発展し、住宅の奥に接客祭礼空間を優先的に確保する平面構成に発展していったものと思われる。

その意味でこの住宅型は藩による文化的条件に強く規定されたといえる。

④ 小浜藩では、同じ系統の住宅であるが、その発展の過程が異なる 2 つの住宅型が各々に分布圏域を形成している。これは藩内の独自の歴史的支配経過を有する地域のわく組みと、それを本拠とする大工組の仕事圏域に規定された結果といえる。このことは藩によって住宅が異なり、その藩独自で独特の農家住宅が成立しているのは藩のわく組みによる人的・文化的条件に規定されていると仮説したが、その条件下において実際の住宅普譜に大きな関わりをもつのは大工であり、その大工は藩という支配領域のわく組みに仕事範囲と技術などが強く規定されていると考えられ、藩で住宅が異なる直接的条件の一つであったことが示唆されよう。また福井藩においても、異なる住宅型が各々に分布圏域を形成しているが、それは郡奉行管轄区および代官管轄区域という支配領域に規定されている傾向がうかがわれるのである。

謝 辞

本稿の調査に際して多くの人達の協力を得た。とくに対象地域 37 の市町村の総務課、教育委員会社会教育課、小浜市立図書館、875 名の農業集落区長各位、調査させて頂いた農家の方々、そして種々の史料を紹介して頂いた小浜市文化課の杉本氏、以上の方々に対して記して感謝の意を表します。最後に本稿は新住宅普及会の助成を受けたことを付記する。

注

- 1) 青木正夫、大岡敏昭：旧藩領域からみた江戸時代後期～明治期における農家住宅平面構成の地域的相違に関する実証的研究（その 1）日本建築学会計画系論文報告集 363 号、昭和 61 年 5 月）
同（その 2）日本建築学会計画系論文報告集 369 号、昭和 61 年 11 月
同（その 3）日本建築学会計画系論文報告集 373 号、昭和 62 年 3 月
同（その 4）日本建築学会計画系論文報告集 377 号、昭和 62 年 7 月
- 2) 藤井謙治：譜代藩政成立の様相—酒井氏小浜藩（岩波講座、日本歴史 10 近世 2）岩波書店、p. 106
- 3) 同前、p. 106
- 4) 本研究における調査住宅の復元は日本建築学会民家小委員会「民家調査基準Ⅰ、復元的調査および編年」（1962）に基づいて行った。
- 5) 石原憲治：日本農民建築 第四、五輯（南洋堂書店）
大岡 実 ほか：湖北地方民家の類型、日本建築学会論文報告集、66 号
大岡 実 宮沢智士：湖北地方民家の編年、日本建築学会論文報告集、66 号
福井県教育委員会：福井県の民家
京都府教育委員会：京都府の民家
滋賀県教育委員会：滋賀県の民家
玉置伸吾：北陸地方における農家住宅の変容過程に関する

- る研究, 住宅建築研究所報 (11), (12), (新住宅普及会)
- 6) 石原憲治: 日本農民建築 第五輯 (南洋堂書店) p. 64.
前土間の概念は石原憲治氏によって使われている。この定義によれば「ニワの入口が、建物の妻の方に附いている形式」とされているが、これは本稿の妻入りの前土間型を意味している。しかし、土間と入口は妻側だけに限らず桁行き側にも存在する。本稿では妻側、桁行き側に関わらず住宅の前側に土間があり、その前に入口がある住宅を前土間として修正定義した。
- 7) 注5の各文献
- 8) 前掲: 旧藩領域からみた江戸時代後期～明治期における農家住宅平面構成の地域的相違に関する実証的研究 (その1)
- 9) 前掲: 「福井県の民家」では越前Ⅱ型と越前Ⅲ型の分類がみられる。この2つの型は広間の奥の座敷一仏間を含む4室 (または2, 3室) の平面構成は同じであるが、広間とそれに付随する部分の構成が異なるだけである。したがって、この2つの型は同じ系統の住宅型であるが、その発展段階 (過程) の異なる住宅型としてとらえる方が適当であるように思われる。
- 10) おだち構造とは民家の小屋組の方法であり、一般にみられる茅葺きの合掌 (サス) 造りとは違って、棟通りに地梁をおき、その上に棟束を立てて棟木を支える方式とされている。ほかにも色々の呼び方があり定まっていない。
前掲: 福井県の民家, p. 9
前掲: 京都府の民家, p. 11
- 11) 前土間C系統の分布域には広間の奥の居室が4室ではなく、2～3室の小規模のC系統の住宅も分布していることが既往調査で明らかにされている (例えば玉置伸吾: 北陸地方における農家住宅の変容過程に関する研究, 住宅建築研究所報 No. 11, p. 117～120)。これによると最も奥の2室は座敷 (ザシキ) と寝所 (ナンド) で構成されているのである。したがって、この小規模の住宅から住宅規模の拡大にともなって広間の奥の部屋は4室構成になり、奥の2室が次第に接客空間 (ザシキ) と祭礼空間 (ブツマ) に発展したといえる。そして寝所 (ナンド) は住宅の桁行き側にツノヤとして設けられたり、下座敷を兼用していったと考えられる。
- 12) 敦賀市史 通史編上巻
- 13) 前掲: 福井県の民家
- 14) 高浜町誌, p. 199
- 15) 同前, p. 199
- 16) 同前, p. 199
- 17) 川本忠平: 気仙大工出稼ぎの移動範囲と距離的性格の一考察, 岩手大学学芸学部研究年報, 第三巻, 昭和27年
- 18) 藤島玄治郎: 日本建築工匠技術の一研究, 近江大工と其の技術, 建築学会大会論文, 昭和9年
- 19) 川上 貢: 摂州在方農家普譜と福井大工組大工, 日本建築学会論文報告集, 227号, 昭和54年
- 20) 小浜市立図書館所蔵
敦賀郡の大工は敦賀郡の代官所の直接の管轄下にある。
- 21) 図一7は日向進氏らが調査し発表された「若狭の大工と営業圏」郷土史 (若狭) 第27号に記載されている社寺普譜と大工の居住地についての項目を利用し、筆者らがプロット地図として作成したものである。データの引用について謝意を表します。
- 22) 名田庄村下の西市右エ門氏所蔵, 小浜市立図書館にも所蔵
- 23) 福井藩御領分 御代官拾四領所分 (福井藩史事典, 歴史図書) p. 213～
- 24) 前掲: 湖北地方民家の類型, 日本建築学会論文報告集, 66号
前掲: 湖北地方民家の編年, 日本建築学会論文報告集, 66号
前掲: 滋賀県の民家
前掲: 京都府の民家
- 25) 前掲: 譜代藩政成立の様相—酒井氏小浜藩, p. 130

SYNOPSIS

UDC : 711.3 : 728.6 : 72.011.2

THE DIFFERENCE AND SPECIAL IN THE MAEDOMA-PLAN BY A TERRITORY OF THE TANABE, OBAMA, HUKUI-CLAN

A study on the regional difference of the farmhouse-plan in latter Edo
and Meiji period by a territory of a feudal-clan Part-5

by **TOSHIAKI OOKA**, Asst Prof of Nihon Bunri Univ. and
Dr. **MASAO AOKI**, Prof. of Kyushu Univ., Members of
A.I.J

In this paper, it is our aim to show that there were regional differences in the farmhouse-plan of the late Edo Period by a territory of a Fendal-clan.

We primarily pusue the following points :

As in the previous paper, we analyze the defference and special in the MAEDOMA farmhouse-plan by a territory of the TANABE, OBAMA, HUKUI-clan